

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人大乗福祉会
施設名	小さい森の保育園
報告者（役職）	緒良辺 スティーブン（ 連携担当責任者 ）
住所・連絡先	〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町1580-1
	☎ 027-289-6145
	E-mail small.mori1201@gmail.com

○タイトル（保育計画）

「じゃれつき遊び・スキンシップ遊び」で、親子の絆を深め子どもの健全な発達を

○主な助成備品

ハイハイマット・カラーエバーマット

1. 保育計画策定の目的

小さい森の保育園では、「じゃれつき遊び・スキンシップ遊び」に力を入れております。

じゃれつき遊びとは、子ども同士、もしくは子どもと大人が全身を使ってじゃれ合うスキンシップ遊びです。思い切りじゃれ合うことにより、スキンシップやコミュニケーションを図ることができ、子どもの脳の発達にも良い影響があることがわかってきています。園では、積極的にじゃれつき遊びを取り入れることで、運動機能の発達をより高めるだけでなく、感情や意欲を担う前頭葉を活性化させることで、思考力や行動力の向上を目指しています。また、汗をかいて遊ぶことで、体を動かすことの喜びを感じたり、発散することの大切さを知ったり、子どもの気持ちが安定することを目的とします。

2. 具体的な実施内容

ハイハイマット・カラーエバーマットを遊戯室に敷き詰め、子どもたちが思いっきり自由に遊べるように配置しました。床や壁の角などにぶつかっても痛くないようマットを壁側にも立て掛けました。

それぞれのクラスの保育者は、子どもたちが十分に楽しめるように、また、少しでも身体機能の向上につながるように、マットの配置を変えたり、マットを重ねて高さを出したりと工夫しました。子どもたちの発達過程を十分理解し、安全面にも配慮しながら取り組みました。



【0歳児クラス】

ハイハイ期にハイハイすることが少なく、立って歩けるようになるのが早い子が多い反面、腕や足の筋肉や体幹がまだ十分に発達していないことが原因で立ち姿勢が安定せず、バランスを崩しやすい子が近年増えてきていると言われています。その予防のため、小さい森の保育園では0歳児からじゃれつき遊びやマット遊びを継続的にを行い、不安定なマットの上を歩いたり、ハイハイして移動する動きを取り入れた遊びを行ったことで、バランス感覚や体幹が自然と養われ、足に力が入りやすくなり立ち姿勢も安定し踏ん張れるようになったと実感しています。保育者は、0歳児の発達も考慮しながら子どもたちが楽しめるよう計画を立てています。



【1歳児クラス】

活発な子どもが多く、保育者と追いかっこをしたり、マットの上で前回りしたりと元気いっぱいに遊戯室中を駆け回ります。つまずいて転んでも、マットがあるから大丈夫と理解しているのか、動きがダイナミックです。保育者は子ども同士が勢い余ってぶつからないように、しかし子どものペースを崩さず自分自身で危ないと気がつくことができるよう、適宜声掛けを行います。



【2歳児クラス】

全身のバランスが身に付き遊びの幅も広がる時期なので、友達を誘ってコロコロと転がったりジャンプを取り入れたり、自ら考え遊びを展開する姿も多くみられます。

保育者の提案したサーキット運動遊びが大人気で、オレンジのマットは熊さんハイハイ、緑のマットはカエルさんピョンピョンと詳しくルールを説明しなくても、見様見真似で自然と理解し、子ども同士教え合う姿に成長を感じます。



【子育て支援】

二之宮保育園地域子育て支援事業センター「おひさまひろば」にもお越しいただき、マットでのスキンシップ遊びに参加していただきました。お家の中でも親子で楽しくスキンシップをとりながら遊ぶことで、より一層子どもとの絆を深めることができるよう期待し開催いたしました。はじめは慣れないことで戸惑う姿も見られましたが、子どもたちと自由にじゃれ合う内に笑い声が溢れる温かい雰囲気で楽しむことができていました。保護者同士が気軽に交流できる場ともなりました。



3. その成果と評価

今までもじゃれつき遊び、スキンシップ遊びは行ってきましたが、子どもたちの勢いや転倒で床や角にぶつかり怪我をしてしまうのではないかと不安に思うあまり、動きを制御したり、ダイナミックな動きは控えようとしたりすることもありました。今回の運動マットを取り入れたことで、子どもたちへの良い影響だけではなく、保育者も計画を立てる際に挑戦できる動きが増え活動の幅が広がりました。

じゃれつき遊びをダイナミックに行えることで、1歳児、2歳児では、友達とぶつからないようにするにはどうすればよいかを考え、自分自身でブレーキをかけたり、力を加減することを自然と身につけられるようになりました。0歳児の子どもたちも、遊戯室に行くと思いつ切り遊ぶことができると理解しているようで、目を輝かせ、早く動きたくてたまらないと感じている様子も見られました。

成果として感じるのは、子どもたちが思い切り遊べることで、活動が終わった後の満足そうな表情が見られ、その後の活動にもスムーズに入ることができ気持ちの切り替えも上手にできていることです。0歳児、1歳児、2歳児それぞれで自ら考え、運動や遊びを楽しむことで深い満足感を得たり、自信につながっていったりすることに気がつくことができました。

4. 今後の課題と展望

遊戯室にマットを敷き詰め活動するようになり1年が経ちました。感染症予防対策を実施し、少人数で換気を行いながら実施しました。少人数でじゃれつき遊び、スキンシップ遊びを行ったことで、子どもたちとの絆がより一層深まりやすくなったように感じています。新しく入職した職員や、新たに入園してくれた子どもたちが、緊張している様子でもスキンシップ遊びで思い切り一緒に遊ぶと、緊張もほぐれ、じゃれつき遊びが終わるころにはリラックスしている姿も見られます。

今後もマット遊びを継続し、保育者で話し合い、いろんな意見を取り入れながら、子どもたちの身体能力や心身の発達向上に繋げていけるように、安全に配慮しつつ計画を立てていきたいと思っています。

以上